※文字の大きさは Meiryo UI ／12 ポイント以上とし、上下左右の余白は変更しないでください。
※各項目の枠の幅は変更可能ですが、必ず A３用紙片面におさまるように作成してください。
※画像、写真、イラスト等は、用紙の中におさまるようにし、ファイルサイズは５MB 以下としてください。

【様式２】

研修成果の活用レポート/NITS 大賞エントリーシート

※研修成果の活用レポートは、NITS 大賞エントリーシートと同様式です。NITS 大賞に応募される方は、推薦者への提出とは別に、＜award@ml.nits.go.jp＞宛て、メールにてお送りください。なお、メール送信後、３日以上受領メールが届かない場合はご連絡ください。

※事務局記入欄

受理№：D-116

【学校名・氏名】 かすみがうら市教育委員会学校教育課　鈴木亮範

【修了研修名】 平成３０年　第５回　中堅教員研修

【応募部門】

校内研修プログラム開発・実践部門

【活動名】 道徳科授業力向上への取組

実態やニーズに応じた研修を通して

解決すべき課題：

新学習指導要領（平成２９年告示）では、改訂の基本方針の一つとして、道徳教育の充実が明記され、「道徳の時間」が「特別の教科　道徳」として教科化された。また、道徳科の目標である「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度」を育むために、答えが一つではない道徳的な課題を児童生徒一人一人が自分自身の問題と捉え向き合う「考え、議論する道徳」への転換が必要とされている。

一方、近年、茨城県では、経験値の高い教員が多く退職し、新規教員の採用数が増加している傾向にある。年齢層のバランスが崩れ、これまで各学校の中で自然と行われていたベテラン教員から若手教員への知識・技能伝達の機会の確保が困難となっている。

また、学校訪問での授業参観や、若手教員との面談及びアンケート調査において、道徳科の授業実践に悩みや不安を抱えている教員の割合が多いことを感じ、これからの本市の教育を担っていく若手教員に対し、「考え、議論する道徳」に着眼した授業力の向上を図る必要性があると考えた。

目標・方針：

目標：「若手教員研修及びフレッシュ教員研修を通して、かすみがうら市内小中学校教員の道徳科授業力の向上を図る。」

方針：「教員の実態やニーズを適切に捉え、授業力向上のための視点を絞り、授業研修及び研究協議を実施する。」

活動内容：

○道徳科の授業における意識調査の実施

- 平成３０年度末に、市内小中学校で道徳科を担当している教諭、講師に対しアンケートによる意識調査を実施した。
- アンケート調査の結果、「自己を見つめる」「物事を（広い視野から）多面的・多角的に考える」「自己（人間として）の生き方についての考えを深める」学習活動の中で、「物事を（広い視野から）多面的・多角的に考える」についての学習が十分でないと考える割合が多いことが明らかになり、本市の重点課題とした。

○３年次教諭による道徳科の授業公開（若手教員研修）

- 新たなステージに進む時期にある３年次教諭が年間一回、授業公開を実施した。（令和元年度は３年次教諭が７名なので、合計７回の実施）
- 働き方改革の視点から業務量の軽減を図り、簡略化された学習指導案作成を提唱し、当日の授業実践に力を注げるようにした。

○３５歳以下の教諭・講師による研究協議への参加（フレッシュ教員研修）

- 年間一回以上、３５歳以下の教諭等が若手教員研修における道徳科の授業を参観し、その後の研究協議に参加した。
- 「物事を（広い視野から）多面的・多角的に考える」学習活動に着眼した自らの授業実践レポートを持参し、主体的な態度で研究協議を行うことができるようにした。

図１　道徳科の時間に〇〇の活動ができたか（教職員事前アンケート）

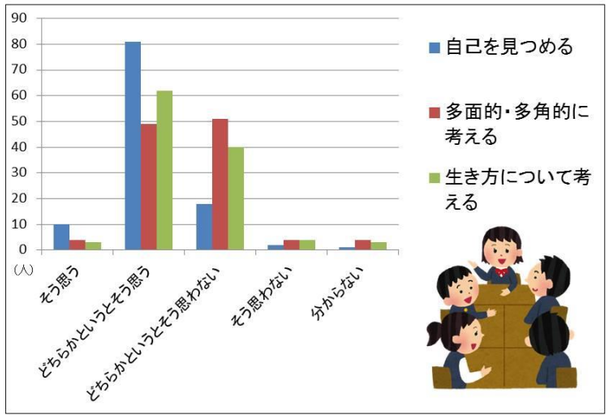
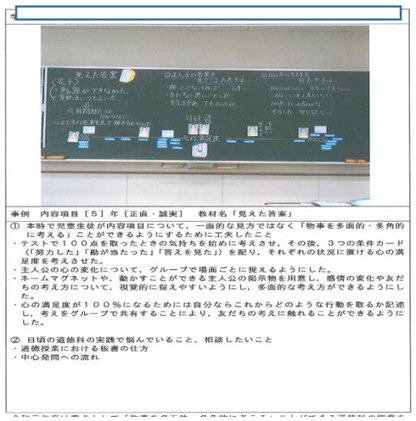


図２　研究協議持参資料（例）



資料　１　授業参観後のフレッシュ教員の振り返り（「子どもたちは『多面的・多角的に考え』ていたか」）

- 児童のワークシートから、登場人物の友達の気持ちを考えていることがうかがえた。
- ある児童が、主人公の気持ちを考えるとき、学級の友達の意見を聞いて、自分の考えを書き直していた。
- 児童が「これからの自分にできること」という発問に対し、新たな視点を持つことができていた。
- 生徒同士のやり取りの中で、友達の意見を聞いた後、その意見に対して「なるほど…」等という納得したような反応が見られた。
- 「〇〇さんは何て書いた？」と友達に問い、自分と友達の意見を比較することで考えを練り上げていこうとする生徒の様子が見られた。

活動の成果：

○若手を中心とした市内の教員が、道徳科の目標を達成するための一つの手立てである「物事を（広い視野から）多面的・多角的に考える」学習活動について理解を深め、授業実践の中で意識して取り入れようとする姿勢が見られるようになった。

○年度末には、再度意識調査を行い、教員の意識の変化や道徳科についてのニーズを把握することで、次年度の若手教員研修に生かしていく。

アピールポイント（アイディアや工夫）：

○「学校教育課指導室便り」を活用し、本年度の道徳科授業実践の重点について市内全職員への周知を図った。

○道徳の授業を公開した３年次の教諭には、市指導主事が肯定的な評価を行い、モチベーションの継続を図れるようにした。